科目名	呼吸病態学実習

科目責任者　森本　泰夫	（呼吸病態学　教授）	
担当者　和泉　弘人	（呼吸病態学　准教授）	
開講時期：　2年次	単位数：　4 単位	時間数：　90分×　60 回

● 科目の教育目標

一般目標（GIO）

職業性呼吸器疾患の病態モデル等から病態を解明するための分子生物学的アプローチを実施し、実際の病態との関連を実習を通して検証する。

行動目標（SBOs）

1）職業性肺疾患の特徴を系統的に考察できる。
2）分子生物学的アプローチの手法を系統的に考察できる。
3）分子生物学的アプローチの手法の意義を系統的に考察できる。
4）分子生物学的アプローチの解析を系統的に考察できる。
5）職業性肺疾患における分子生物学的アプローチの意義を考察できる。
6）職業性肺疾患において分子生物学的アプローチの応用を系統的に考察できる。
7）職業性肺疾患の生理学的基礎理論の応用を系統的に考察できる。
8）職業性肺疾患において分子生物学的アプローチ解析の応用を系統的に考察できる。
9）各病態モデルにおいて分子生物学的アプローチ解析の応用を系統的に考察できる。

● 評価方法	検討会での発表（40％）、レポート（30％）、討論（30％）等で総合評価する。
● 参考文献	実習の中で必要に応じ紹介する。

● 授業内容

内容	担当教員
動物モデルやスクリーニングモデル等を介して研究アプローチの手法やその解析方法のデザインの構築を習得する。	森本
カンファレンス、抄読会等を介して、研究アプローチの手法やその解析方法のデザインの構築の正当性や妥当性を検討する能力を習得する。	森本
カンファレンス、抄読会等を介して、プレゼンテーションやコミュニケーション能力の充実化を図る。	森本
研究テーマの指導を行うともに、テーマに基づいたアプローチの手法やその解析方法を自ら提案させる。	和泉
研究アプローチの手法やその解析方法の指導を行うとともに、得られた結果の解釈の仕方、まとめ方についての実践的な実習を行う。	和泉